西山地区
コミュニティ協議会だより
【(西風) 令和４年度 10 月号】
発行：西山地区コミュニティ協議会
会長　中村史傳
令和４年 10 月６日発行
薩摩川内市下甑町瀬々野浦 1194
TEL　09969-5-0122
FAX　09969-5-0355

これからの行事（１０月の行事）

４日　主事連絡会
７日　学校運営協議会
８日　グランドゴルフ練習
９日　市民運動会
１１日　地区コミ事務局会議#12
１２日　サロン・ナポレオン（健康体操）
１６日　海岸清掃（地区内清掃）
〃日　サロン・ナポレオン（食事会）
１８日　ぽっちゃんプロジェクト報告会
２１日　助八古道を育む会実行委員会
２４日　地区コミ事務局会議#13

旧西山小学校校庭の草刈り

残暑が厳しい９月11日に今年度２回目の草刈りを行いました。梅雨季が短かった割にその後に大雨が続き、雑草の成長が早かった夏季を過ぎた校庭は、グランドゴルフの練習も出来ない状況に。久々の草刈りでさっぱりした校庭が清々しく、彼方に望むナポレオン岩が笑ってるようです。

今回は、39名のボランティアの方々に参加して頂きました。

高齢者クラブの花苗植え活動

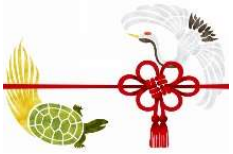
秋晴れの９月20日に、高齢者クラブの中から17人が集まりバス停前の花壇の整備を行いました。

夏季のちょっとの間に、夏草に花が埋もれていましたが、皆さんの活動で綺麗に整備されて新たな花苗も植えられ、綺麗な花壇が復活しました。

また、各家庭に２株ずつ庭で育てたり鑑賞するなど楽しんでもらえるよう配付しました。

敬老の日、長寿を祝う

3年振りに敬老会をと楽しみにしていましたが、コロナ感染者が急増したため、今年も記念品を配付して長寿のお祝いをしました。



当地区の対象者（70歳以上）は今年44名でした。新たな加入者は2名、最年長者は百歳です。皆さま元気に過ごされて、来年こそは敬老会の開催を楽しみにしてください。

お知らせ

今年も12月11日（日）に「助八古道を歩こうかい」を予定しています。

スタッフ一同準備を行い、皆さんのご参加をお待ちしています。

九州情報大学と地域交流会

例年はこの時期の地区運動会で九州情報大学との交流を重ねていますが、コロナ禍のなかで2年間交流が途切れています。

学生達との繋がりを保つために、従来とは違う交流を9月24日（日）に行いました。「スマホ・PCよろず相談会」として使い方などを教える相談会です。

当日は数人の相談者が参加してメールの操作や電話番号登録、PCのWi-Fi利用方法などの相談がされていました。

参加された大学生からは来年も訪問したいとの感想が聞かれました。

地域おこし協力隊レポ

インスタグラムをはじめました

西山地区の風景や地域行事など、西山の「今」を発信しています。

瀬々野浦をはじめとした下甑島の日々の様子を投稿します。

お時間のある時に、ぜひご覧ください。

Follow Me！

Instagram

shimokoshiki_sesenoura

SHIMOKOSHIKI_SESENOURA

フォローは上記 QR コード、
もしくは左記アカウント名で検索

甑島の化石を語る　　（記事提供：三宅優佳）

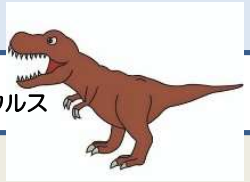
＜其の１＞

お盆が過ぎると海にはクラゲが現れる時期となります。クラゲは１年中海の中にはたくさんいるのですが、６月下旬からお盆の時期にかけてすくすくと育ち、最大サイズにまで成長するため、お盆の時期にクラゲが大量発生したように見えるそう。加えて、台風などで発生した大波によって、沿岸部まで流されてくることも理由の一つです。

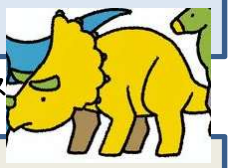
地球の表面積の７割を占める海は、恐竜の先祖になる種を含め、たくさんの生物を産み出してきました。その中で恐竜時代の海において、生態系の頂点に君臨していた生物が「モササウルス」でした。白亜紀後期の海に生息していた有鱗目というトカゲやヘビの仲間で、クジラのように足がヒレに進化し、完全な水生適応を実現した唯一のトカゲです。完全水生適応の結果、重力から開放されたモササウルスは、大きなものでは全長１５m以上にまで達し、トカゲやヘビの中で最大の巨体を誇りました。当時の海の最強の捕食者でもあり、海のイカ類、魚類、カメ類、アンモナイト類、果ては同種で共食いまでしていたとのこと。恐ろしく獰猛であったとされ、小型の個体がより大きな個体に襲われ、食べられてしまうといった事例も多発していたようです。彼らは、海生ワニや首長竜、魚竜等の多くが絶滅したことで、その穴を埋めるように繁栄していき、瞬く間に海の頂点に上り詰めました。嗅覚が鋭く、獲物を発見しやすかったため、狩りの能力に長けていたことも繁栄の要因になったのでしょう。

そんなモササウルスの化石が、甑島の鹿島からも見つかっています。モササウルスの餌になる魚やウミガメ、アンモナイトなどの化石もたくさん見つかっているため、モササウルスにとってはご馳走のたくさんある魅力的な場所だったに違いありません。

モササウルス



ティラノサウルス



トリケラトプス

＜其の２＞

甑大橋が開通し１年を過ぎ、島内の往来が頻繁になりました。その昔、ベーリング海峡が陸続きになって渡ることができた時、恐竜たちも初めて見る景色や生きものたちに驚き、感動したのでしょうか。

その名の通り恐竜時代の海の猛者であったモササウルスは、海の爬虫類としても、また、トカゲの仲間としてもユニークな特徴を持ち合わせた動物でした。モササウルスには鰭があり、かつ巨大なものがいた、と前号（其の１）で書きましたが、このたった２つの特徴を獲得するために、彼らは彼らが生きた約 3000 万年間のうちの約 1000 万年もの時間を費やしました。出現当初のモササウルスは小型で、短い足を持った長い胴体とそれに続く長く直線的な尾を持った、体型も生活の仕方も現在のカワウソに似た動物であったと言われています。しかも、のちに大型化したモササウルスはその一生を海で過ごしたのに対し、この原始的なモササウルスは、その生活の一部を陸で過ごしたと考えられています。巨大化したことと、完全に水生適用したことにより、モササウルスは白亜紀後期の海における食物連鎖の頂点に上り詰めました。トカゲの仲間でありながらも水生適応の過程でその携帯を大きく変化させ、なおかつその大きさや活動レベルにおいてトカゲの一般的な枠組みを遥かに超えたユニークなトカゲの仲間となったのです。

ベーリング陸橋を通って恐竜たちは大陸を行き来し、渡った先で独自の進化を遂げました。それがティラノサウルスであり、トリケラトプスでもあります。甑島がひとつになり、道路事情ひとつをとっても、目に見えて変化が出てきました。今までの生活とはどうしても変化は生じてきますが、橋が繋がった利点を最大限に生かし、大切な部分を守り続けていくと共に、私たち自身が環境に適応していくことで、子や孫の世代が快適に生活できるユニークな甑島が出来上がっていって欲しいものです。